

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

現在、乳腺外科では、本学で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 簡易に導入可能な、乳房下方領域における乳房温存術の工夫

[研究対象者]

2023年3月から2025年3月の間に東京女子医科大学乳腺外科において乳房温存術を施行された患者

[利用している診療情報等の項目]

診療情報等：生年月日、手術時の身長・体重・BMI、併存疾患、Performance Status、乳癌の家族歴、手術日、手術時年齢、乳腺濃度、マンモグラフィで測定した乳房体積、病理組織検査結果（針組織生検・吸引組織生検、術後病理組織診断、ER、PgR、HER2、Ki-67、組織型、腫瘍径）、手術記録（腫瘍の位置、乳頭腫瘍間距離、標本重量、手術時間、出血量、追加切除の有無）、術後合併症（術後出血、皮弁壊死、感染症、術後の疼痛）、術後補助療法（術後放射線治療の有無、放射線治療開始日、回数、ブースト照射の有無）、整容性（外来診療医による主観的な評価：術後初回診療、術後3ヶ月、術後半年、術後1年）、画像診断検査結果（乳腺超音波検査、マンモグラフィ検査、乳腺造影MRI検査、PET-CT検査）、再発日、再発部位、手術から再発までの期間

[利用の目的]（遺伝子解析研究：無）

乳房の整容性を保つことが難しいとされる乳房下方領域における乳癌手術において、今回導入した術式での術後の乳房の整容性が、術前と比べて維持されているかの医師による主観的評価と、従来法に比べて手術時間の大幅は延長がないかを検討することで、安易に日常診療に導入可能かを検討する。

[研究実施期間] 倫理審査委員会承認後より2027年3月までの間（予定）

-----  
[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には氏名等の情報を削り、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

機関長：東京女子医科大学 理事長 清水 治

研究責任者：東京女子医科大学 乳腺外科 教授・基幹分野長 氏名 明石 定子

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 乳腺外科 氏名 野口英一郎

電話：03-3353-8111（応対可能時間：平日9時～16時）